

自分らしく人生を終えるために元氣なうちから備えたい。そんな「終活」の裾野が広がってきた。墓や葬儀について考えるだけでなく、身の回りの物を「断捨離」する生前整理を始めたり、入院などの際の身元保証を第三者に頼んだりするおひとり様が増えている。人に迷惑をかけずに人生の最期を迎えたいという思いが垣間見える。



津々木さんは夫を1年半前に亡くした。築38年の家には夫婦と独立したモノの要不要を指示しながら整理作業を見守る津々木さん(千葉県市)

おひとり様「終活」で安心

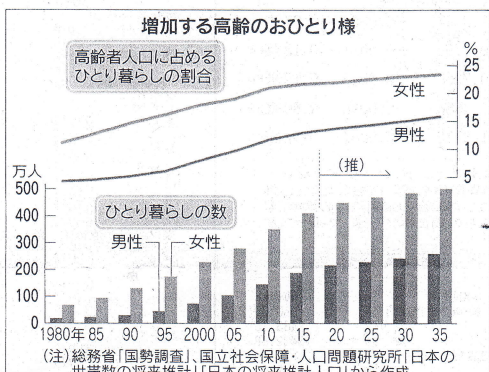
息子たちの荷物が残った。「このままじゃいけない」と思っていた。息子たちの勧めもあり生前整理を決めた。

請け負ったのは遺品・生前整理を手掛けるリリーフ(兵庫県西宮市)。津々木さんが見守る中、朝9時に始まった作業は午後3時に終了した。処分費は2トトラックで5万台。費用は約36万円だった。

赤沢知宣おかたづけ事業部長は話す。「放置したまま死ぬと家族に迷惑がかかる」という動機の依頼者も少なくないという。

朝9時に始まった作業は午後3時に終了した。処分費は2トトラックで5万台。費用は約36万円だった。

元気なうちから、50~60代も



生前契約の老舗。中部・関東の14カ所に事務所を構え、契約者は累計で1万人近くに上る。

物品を届けたりする様々な支援をワンストップで実行する。契約者が亡くなれば葬儀や納骨もする。身元保証だけでなく事務所を構え、契約者は累計で1万人近くに上る。

病院や施設・賃貸住宅への入居時の身元保証を軸に、手続を代行したり付き添ったり、必要ないは遠方に住んでいて、緊

スマホ写真やメールなど

「デジタル遺品」にも目配り

「あなたはパソコンやスマホがパソコンに入っている」とを残して死ねますか?」

先月26日に開かれた「デジタル社員(女性4人)は、データ終活セミナー」。講師の伊勢田を隠すだけだ。毎月利用料を払って、参金を支払っているネットの有料加者全員が首を振った。

デジタル終活とは、パソコンやスマートフォン(スマホ)、タブレットなどのデジタルデバイスに保存した写真やメール、データなどの「デジタル遺品」について、自分の死後の取り扱いを考慮する活動だ。スマホなどは画面にロックを掛けていない人が大半だし、その中身は「家族には見せたくない写真」

緊急に頼れない。入院や手術の際に職員に立ち会ってもらい助かった。見つけられなかった。原少短保険が扱った。家主が

急時に頼れない。入院や手術の際に職員に立ち会ってもらい助かった。見つけられなかった。原少短保険が扱った。家主が

家主損失カバー

新しい金融商品も出てきた。その名も「孤独死は孤死原状回復費用」は、おひとり様の安心を

6割が「高齢者の入居に拒否感がある」という。

は、賃貸住宅の家主の約